

平成29年度・春季連休中の行仙宿の小屋管理と来宿者の対応

及び作業(小屋前スロープ補修・モノレールの座席設置)など

◇実施日；平成29年5月6日(土)～7日(日)

◇参加者；5月6日 川島 功、梶野照雄、乾 克己。 3名。

5月7日 乾 克己、沖崎吉信、児嶋道夫。 3名。

5月6日(土) 晴後一時雨

(宿泊者数 6日ツアー客11名 他2名 計13名)

久しぶりの行仙宿である。連休中の小屋管理を沖崎さんをお願いしておいたら最終日の当番となった。

管理人は私一人である。予約は10名だそうだ。

道路規制があるそうだが連休中は解除ということなので自宅を

6時半に出て、途中スーパーに寄って三日分の食料を買い出した。

今回は、手伝いが終わったら前に行きそびれていた八人山を一人で周回する予定だ。夏場の食品の痛みは早いので当日の買出しとした。連休も最終日となると車の数も減っており快適に走れた。

途中、上北山村の山仲間朝採りの野菜を届けるために立ち寄った。

白谷トンネルが全面通行止めとなっているので、県の道路情報をネットで調べてみたら連休中は解除となっていた。明日はトンネルを通ると短時間で八人山の取り付きまで行けると思っていた。

しかし、浦向まで来ると全面通行止めとなっており、進むにつれて通行止めの看板があるので確認のため現場まで行って見た。なんと頑丈なガードレールでバリケードされていた。

奈良県の道路情報のいい加減さに呆れるやら腹が立つやら、これではネットだけを見て、遠方から来られる人は大迷惑だと思う。

10時過ぎに荷揚げ口に到着。ルンルン気分です登って行き、第二ベンチも過ぎ鉄塔まで来たところで梶野さんが背負子を担いで下って来た。

「乾さん3日の戸開け日に栗原さんと山上で遭ったんだってね」
ネットで報告もらいましたよと、しばし立ち話。

小屋には11時過ぎに到着。川島代表が倉庫の片付けをされていた。まもなく下って行った梶野さんも戻って来られたので早目の昼食とした。私の今日の食事は昼・夜共に弁当を買ってきた。お二人は特製のカレーライスを食べておられた。

昨夜は少し前に事務局に送っていただいた「コシアブラ」を材料に天麩羅にしたとか、何とか役に立てて嬉しかった。

小屋の周りには間伐材をチェーンソーで厚板に切ったと思われる簡易な長椅子が、いくつも作られていた。よくもこんなに均一の厚さに挽くことができるものだと感じていたら、梶野さんが作られたとか、作り方を聞いて感心した。何とも器用な人だ。山彦には児島さんといい、器用な人が沢山おられて頼もしい限りだ。

梶野さんから今夜のツアー客の案内状を頂き引き継いだ後、ポツポツと降り出した雨の中を13時半過ぎにお二人は下山された。

13時半ごろに予約の者ですと行者姿の若者が到着した。名古屋からで、今回で奥駆けは四回目と言っていた。昨夜は五鬼助さんに逢いたくて小仲坊に泊まられたとか、それにしても早い到着である。少し話している内に大きな荷物を背負子に背負った若者が2名到着した。聞いてみると今夜のツアー客のボツカ隊である。



凄い荷物なので試しに持ってみると30kgはありそうだ。

その内に本隊の予約のツアー客がぞろぞろと到着しだした。みな相
当に年配者である。

昨夜は深仙小屋とテントに振り分けられて泊まったとか、ツアー
リーダーは最後尾者に付き添っているので30分ほど遅れて到着
した。全員で11名、その内専属ポツカが2名。

二名のポツカはまだ荷物があるのでと荷揚げ道に下って行った。
先に到着した人達に水汲み話にしても誰も動こうとしない。

到着したリーダーに一通り小屋のマナーについて説明をした。
水はポツカが登山口の水場の水を40リットル上げることにした。

早くに到着した客に話を聞くと、参加者は全国から来ていてツア
ー代金は一人128000円とか、自分達の荷物は雨具と弁当ぐらいいで
夕食の材料や段取り、備品類は全てポツカがすることのこと。

明日は本宮まで行きタクシーでホテル昴に泊まるとか。大名旅2
行である。

16時頃にLEDの電灯を灯すことにした。
雨も本降りになって来て、スリッパで水汲みに行った行者が間違
ってかなり下まで下って行ったとか、雨と汗でビショビショになっ
て戻ってきた。

60〜70歳台の参加者が多く、75歳の島根県から来たという
人は今回が6回目の奥駈け縦走と言っていた。毎日20キロの荷物を
背負って2万歩歩くのを日課としている、体脂肪率は、3.5%と
か、こうなると猛者である。

明日の朝は5時に出発したいとのこと。行者はその少し前に出ま
すというので話が決まった。

16時半頃から夕食の準備をされたところでソーラーの電

灯が消えたので発電機を回すことにした。早く休みたいとのことなので消灯を19時として、何かあったら連絡下さいと言って管理棟に引き上げた。

18時半頃に一人の若者が到着して泊まりたいとのこと。ツアーリーダーに消灯を30分延長してもらい1時間で食事をして貰うことで話がまとまった。

19時30分に見まわりに行くと食事も済んでおり、消灯して下さいとのことだった。余り早い消灯もこちらの食事の段取りもあり少々問題だ。幸いにして弁当なのですぐに食べ終えた。

玄関の雨水槽から兼ねて聞いていたビールを最後の客に与える
と大層喜ばれた。

管理棟を見ると本棚が乱れていて汚い。17日には聖護院ご一行様も入室されるかも知れないので綺麗に整理した。本も出来るだけジャンル別に並べた。整理していると私が新宮山彦との出会いとなる奥駈け縦走の切っ掛けとなった伊富喜秀明師の追悼集という本を見つけた。私と奥駈けとの出会いは、深仙での伊富喜行者60日間断食行の日記が産経新聞に掲載されたのが切っ掛けで衝撃的な感銘を受けた。その一部始終が記載され、関係者の追悼文が添えられた又とない本である。

本棚にはガスランタンがありボンベも沢山あった。よく探したらマントルも見つかったのでガスランタンとヘッドライトで読み耽った。遅々として進まないのこの本はしばらく貸出としてお借りすることにしました。

5月7日(日) 晴

朝5時に目ざめて小屋に向かうとすでに本隊は出発した後であった。ボツカが清掃も兼ねて整理整頓をしていた。

溜まっていたゴミも持って下りますと持ち帰ってくれた。20歳前後のボツカに、あなた達はどこのボツカ組合ですかと聞いてみたら、いや社員ですと意外な返事が返ってきた。

このツアーはこの若いボツカで成り立っているのだと複雑な気持ちになった。

全員を見送ると何もすることがない。昨日から気になっていた小屋前のスロープが崩れていて見難いので、これを直すことにした。ステップにしている木を鉄筋で補強して、サイドに薪を土留めとして使い、これも鉄筋で補強をして玄関前に古いかまどが捨ててあり、これも見苦しいのでコンクリートの柔らかい部分をハンマーで砕き、その上に土を引き踏み固めたらなかなかのものになったと自己満足しているところへ沖崎さんと児嶋さんが到着された。

17日の聖護院ご一行様に乗って頂くために、モノレールに座席を取付けに来た、そのついでにソーラーの調子が悪いとかで確認してきたと言っていた。

児嶋さんは「乾さんに美味しいコーヒーを淹れに来たと」嬉しいことを言っただけだった。バッテリーを確認して早々にモノレールの作業のために下られた。

14時までの来宿者は単独者3名で、一人は地藏岳までピストンすると出掛けて行った。後の二人は玉置山を目指した。

生ゴミもまとめてザックにくくり、14時30分に荷揚げ口に下山した。

途中、かつて玉岡代表と整備した荷揚げ道がかなり傷んで来ており、修理の必要性を感じつつ林道に到着した。

児嶋さんの何でも屋レスキューカーが停まっております、お二人がモノレールの座席製作で一生懸命働いていた。

15時頃に完成したので3人で試乗してみた。なかなかの乗り心地だが少し狭い。しかし、見た目は立派なものになった。

15時30分。次の目的地の十津川村大野片川を目指して出発することにした。R169の北山村を通り本宮に出て、滝からR425に入り大野出合いから片川を目指すことにした。片川の川を紀州方面では“こう”と読むらしい。地形図を見ると八人山への取り付きは林道終点となっているので気楽に林道終点まで行くととんでもない所に着いた。林道が延長されていたのである。

続きは後日、山行報告を寄稿します。

文・乾 克巳



翌日登頂の南八人山

5月7日(日) 晴

(記 沖崎)

前日の夕方児嶋さんから電話が入り、モノレールに座席を設置するので付き合えないか。

児嶋さんのトラックで二人で出かけた。車中で座席造りがメイン作業(登山口で作業する、材料の一部をも小森で調達する)で、小屋内でバッテリー、発電機等電気回りをチェックする。

登山口にデポしている薪を積込めるだけ終点まで運ぶのと。小森経由で9時頃着いた。この際、少しだけでも荷上げしたいと缶ビール1箱、小瀧螺雲氏から寄贈して頂いた50mザイル、ガソリン50缶を背負子に付け小屋へ向う。

昨日から連休中の小屋番に入っている乾さんが、1人黙々と行者堂横手から行仙宿小屋玄関に通じる段差の修復をされている。

児嶋さんも乾さんも5月17日の聖護院来宿の開眼供養法要4行事を控え、少しでも気になる所を改善したい様である。たいへんありがたいことである。

山彦が何をしてくれるのでなく山彦に何が出来るかと常に思っていたらいてる、感謝である。

小屋に入ってコーヒータムとする。昨晩はパステルツアー1名と行者さん1人(聖護院門跡所属・大先達・伏木さん)外計13名が泊った。

今回のパステルツアー(吉野く本宮迄)の内容案内を見て一人一二八〇〇円と聞いてビックリ!、大半が年配の男子で、今年9月に女性ばかりの同ツアーのが予約を受けている。

児嶋さんは、電気回りを早々にチェックし、座席取付けは時間がかかると一人先に登山口へ。沖崎は片付けなど行い30分後に

追う。

乾さんは段差補修作業終了後に下山することに残る。

登山口で昼食後、作業にかかる。

トラック荷台のバッテリーを電源に作業にかかり、事前にこうしようといメージされていた様だが、取り掛かるとスペースの確保、固定方法や座席の角度に苦労している。

私は、作業を手伝うなど加わる余地はない。上平前村長さんから寄贈頂いた丸太の皮剥ぎと周辺の散乱している皮の片付け、赤い階段横の整理などを行う。3時間位要してやっと座席の設置が出来た。乾さんも降りて来る。駐機場迄乗りごこちをチェックしようとなった。座席は3箇所確保した為、窮屈感はあるが、それだけに体が固定され急勾配の所でも、手や足に力を入れて支える必要は無い。全て100点とはいかないが、宮城門主や玉岡さんにも安心して乗っていただけ様になった。

乾さんは、明日十津川村大野から単独で中八人山へ登る、今日は登山口で車中泊すると先に出発された。

乾さんは既に奈良県の山500余を踏破されている。

道具類等の片付けを行い16時頃に帰路についた。



モノレール荷台に座席設置